

令和4年度

学 力 向 上 プ ラ ン  
【後期】

上尾市立大石南中学校

# 目 次

上尾市立大石南中学校学力向上プラン「グランドデザイン」	1
1 学力調査結果の概要	
(1) 上尾市立小・中学校学力調査（令和4年1学期実施） 【1～2年生：国語、数学、英語】	2
(2) 全国学力・学習状況調査（令和4年4月実施） 【3年生：国語、数学、理科】	4
(3) 埼玉県学力・学習状況調査（令和4年5月実施） 【1年生：国語、数学】 【2～3年生：国語、数学、英語】	6
2 学力向上を図る取組	
(1) 各教科の授業における取組	8
① 国語科 学力向上プラン	
② 社会科 学力向上プラン	
③ 数学科 学力向上プラン	
④ 理科 学力向上プラン	
⑤ 外国語科 学力向上プラン	
⑥ 他教科の授業改善 音楽科、美術科、保健体育科、技術・家庭科（技術分野）、技術・家庭科（家 庭分野） 特別の教科 道徳	
(2) 教育活動全体を通じた取組	18
○本校の特色ある取組	
○家庭教育との連携	

# 上尾市立大石南中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

## 学校教育目標

人生の基礎を培い 夢を語り 向上心と 勇気を育てる  
 出会い ふれあい 学びあい

## 学校課題研究主題

「主体的に学ぶ力を育てる教育課程の工夫」～生徒一人一人の学習目標を意識した指導と評価の一体化～

## 学力・学習状況調査の結果

R4 全国学力・学習状況調査	R4 埼玉県学力・学習状況調査	R3 上尾市立小・中学校学力調査
<p>国語 平均正答数で全国・県ともに上回っており、特に言語文化に関する事項は県よりも9ポイント平均正答率が高い。</p> <p>数学 平均正答数は全国・県と同程度であるが、関数に関する事項は6ポイント平均正答率が高い。</p> <p>理科 短答式の問題は平均正答率が高い。</p> <p>質問紙 3教科とも、「好き」「大切である」と考える割合が全国・県より高く、学習に対して前向きな生徒が多い。</p>	<p>国語 学力を伸ばした生徒の割合が県より22ポイント多く、学力の伸び率も県の2倍になっている学年がある。</p> <p>数学 学力の伸び率が県平均より2倍ある学年があり、学力を伸ばした生徒の割合は県よりも多い。小数点など基礎的な計算能力に課題がみられる。</p> <p>英語 正答率と伸びは県と同じレベルであり、観点では全ての項目で県平均・市平均を上回る学年もある。短答式の問題に課題がみられる。</p>	<p>国語 主体的に学習に取り組む態度・話すこと・書くことは大きく上回っているが、読むことや思考・判断・表現に課題がみられた。</p> <p>数学 標準得点が50を超えており、主体的に学習に取り組む態度が全国比で129と123であり、高い結果となった。文字を用いて表す問題に課題がみられる。</p> <p>英語 聞くこと・主体的に学習に取り組む態度は全国比を大きく上回っているが、書くことに課題がみられる。</p>

## 本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な力の定着	根拠に基づいて自分の考えを構成し、伝え合う力の育成	多様性を尊重し、相手の話等を的確に聞き取る力の育成

## 学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数学習や習熟度別学習で個に応じた指導の推進。</li> <li>・指導と評価の一体化を意識した取組。</li> <li>・月1回の補習・質問日の実施。</li> <li>・ICT端末を活用した個に応じた課題の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考の過程が明確になるようなワークシートの工夫。</li> <li>・各教科におけるルーブリックの活用。</li> <li>・課題、評価の明確化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びのススメ」の配信と定着。</li> <li>・基礎的・汎用的能力のチェックチャートの活用によるキャリア教育の土台作り。</li> </ul>

### 本校の特色ある取組

- ・経験年数10年未満の教員を対象に授業研究の実施。
- ・単元の内容等に応じた少人数学習の実施。
- ・教科ルームを活用した学習環境の充実。
- ・イベントテストの実施。

### 家庭教育との連携

- ・各教科の学習内容の動画配信の実施。
- ・健康的な身体づくりの一環として、フッ化物洗口の実施によるむし歯対策。
- ・自主学習の取組強化。

# 1 学力調査結果の概要

## (1) 上尾市立小・中学校学力調査(令和4年1月実施)

### 第1学年(令和4年度第2学年)【国語】

項目	項目	
考察	標準得点が49.5とやや平均より下回る状況にある。領域別では「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、概ね平均を上回っている。一方、「読むこと」「言葉・情報・言語文化」に関しては平均を下回っており、課題が残った。設問内容に関しては、「スピーチの仕方」「案内文の作成」は平均を大きく上回り、「漢字の読み書き」「古文の読み取り」では大きく下回った。観点別に関しては「知識・技能」は平均よりやや低いものの「主体的に学習に取り組む態度」に関しては平均を大きく上回る結果であった。	
課題	(課題) ・漢字など基礎的・基本的な力の強化 ・読解に必要な語句の意味や文章を読み取る上での基本的な力	(要因分析) 指導者から見て興味関心をもって取り組んだ内容は総じて良い結果になっており、逆もまた然りであった。学習意欲を高め、且つ継続的な努力を支える指導の工夫が必要と考える。

### 第1学年(令和4年度第2学年)【数学】

項目	項目	
考察	標準得点が50.2と50を超えているものの、最高評価の5の生徒が1人もいない。領域別では、関数分野が全国平均より高く、特に関数の利用が124と高かった。観点別では、知識・技能が104、思考・判断・表現が93、主体的に学習に取り組む態度が129である。個々の問題の正答率をみると、文字を用いて表すことに関する問いの正答率が低かった。このことから、生徒は主体的に取り組む、概念的な理解も進んでいるが、数学的表現の仕方に課題があると考えられている。	
課題	(課題) ・文字を用いて数量や関係を表すこと ・日常の場面を数学的に捉え、活用すること	(要因分析) ・今年度は概念の理解と個々の知識を関連付けて理解し、活用することに重点を置いてきたためと考えられる。

### 第1学年(令和4年度第2学年)【英語】

項目	項目	
考察	標準得点が48.4と平均を下回っている。領域別では「読むこと」が全国比86、「話すこと」が全国比85とかなり低い。一方、「聞くこと」に関しては全国比116と高い結果であった。観点別では「知識・技能」が全国比94とやや低くなっているが、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては全国比116と平均を大きく上回る結果であった。内容別に細かく見ると、「英文の内容を読み取り質問に答えること」「英語の発表原稿を読んで問題に答えること」が極端にできておらず、正答率が25%ほどであった。このことから、英文を読んで内容を理解する力に課題があることがわかる。	
課題	(課題) ・まとまった英文や会話文を読んで理解する力 ・基本的な文法や語句を使い、英文を構成すること	(要因分析) ・授業では、インタビュー活動や英語によるやりとりが多く、それを定着させるための「書く活動」が疎かになってしまった。 ・「読む活動」では教科書の読解にとどまってしまい、他の英文を読ませる機会がなかった。

1 学力調査結果の概要	
(1)上尾市立小・中学校学力調査(令和4年1月実施)	
第2学年(令和4年度第3学年)【国語】	
項目	項目
考察	標準得点が49.6とやや平均を下回る状況にある。領域別では「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、概ね平均を上回っている。一方「読むこと」に関しては平均を下回っている。設問内容では「手紙」「敬語」など具体的な知識を要する内容は総じて高いが、「文章の読解」に関する内容は低い値を示した。観点別に関しては「思考・判断・表現」には課題があるものの「主体的に学習に取り組む態度」に関しては平均を大きく上回る結果であった。
課題	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「説明的な文章」や「物語」の読解力</li> <li>・「漢字の読み書き」など基礎的・基本的な力の強化</li> </ul> <p>(要因分析)</p> <p>「手紙」や「敬語」など学習課題が具体的な内容は総じて好結果となっており、比較的「抽象的な課題における学習内容」に関して課題が残った。今後「学習課題の設定」や「学習意欲を高め、且つ継続的な努力を支える指導」の工夫が必要と考える。</p>
第2学年(令和4年度第3学年)【数学】	
項目	項目
考察	主体的に学習に取り組む態度が全国比で123と1学年の時の興味関心98よりたいへん伸びている。また他の全国比でも、知識・技能110思考・判断・表現109と高く数学に興味のある生徒が多いと分かる。
課題	<p>(課題)</p> <p>四則の計算、<math>y</math>は<math>x</math>の1次関数になるものを選ぶなどの基本的知識が全国平均より少し低い</p> <p>(要因分析)</p> <p>問題解決にたいして意識は高いが、その内容が何に役に立つかを理解できていない。</p>
第2学年(令和4年度第3学年)【英語】	
項目	項目
考察	標準得点が49.6と平均に届かなかった。領域別では「書くこと」が全国比89、「読むこと」が全国比97と平均を下回っている。一方、「聞くこと」に関しては全国比109と高い結果であった。観点別では「知識・技能」が全国比99、「思考・判断・表現」が全国比97とやや低くなっているが、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては全国比118と平均を大きく上回る結果であった。内容別に細かく見ると、「場面にあった表現の英文を書くこと」の正答率がかなり低く、正答率が18.3%であった。また、「メモ等から情報を読み取り問題に答える」でも、全国比77であり、やや低い正答率である。このことから、英文を書く力、まとまった英文を読み、それを理解して問題に答える力に課題があることがわかる。
課題	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとまった英文や会話文を読んで理解する力</li> <li>・学習した文法事項や語句を使い、自ら英文を構成する力</li> <li>・伝えたい内容を英文で表現する力</li> </ul> <p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」においては、学習した文法事項を使い英文文をさせたが、それを振り返り、ミスを次にいかす指導ができていなかった。</li> <li>・「読む活動」では教科書の読解にとどまってしまう、他の英文を読ませる機会が少なかった。</li> </ul>
3	

## (2) 全国学力・学習状況調査(令和4年4月実施)

### 国語

#### 考察(問題と結果の分析)

- ・必要な情報を引用し、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書くことに課題がある。
- ・自分の考えを分かりやすく伝えるために、表現を工夫して話すことに課題がある。

#### 課題の要因分析

- ・必要な情報を選択することができない。
- ・必要な情報の引用の仕方が身につけていない。
- ・自分の考えを伝える際に相手意識が欠けている。



#### 各学年における重点指導事項

3年	・相手に自分の考えを伝えるために、信頼性の確かな情報を集めてそれを根拠とし、説得力のある構成を考えさせる。
2年	・目的に応じて複数の情報を整理しながら、内容を理解する力を身に付けさせる。 ・文章構成や論理の展開、表現の効果などの観点を明確にして、文章を比較する姿勢を身に付けさせる。
1年	・情報の整理の仕方を身に付けさせる。 ・意見に説得力をもたせる根拠の在り方や、意見と根拠の結び付きについて理解する。 ・「話すこと」「書くこと」の際に生徒同士で助言し合う時間を設け、相手意識を持たせる。

### 数学

#### 考察(問題と結果の分析)

- ・ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する力に課題がある。
- ・箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しいものを選択する力に課題がある。
- ・ある予想がいつでも成り立つかどうかについて、正しく述べたものを選択する力に課題がある。

#### 課題の要因分析

- ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができていない
- ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取れていない
- ・反例の意味を理解していない



#### 各学年における重点指導事項

3年	・図形の単元の合同条件や相似条件では、条件についての成り立ちや意味を理解させる。 ・多様な図形を取り扱い、多面的・発展的にとらえることができる力の育成を目指す。
2年	・「数や式」の単元で考えさせる場を多く設ける。特に東京書籍の「考えてみよう」をグループ活動や発表の機会を増やし、求めたいものを文字に置き換えて説明・表現する力を養う。 ・文章問題を積極的に取り扱い、文字が何を表すかなど読み取る力の育成にあたる。
1年	・複数の条件の中から、問題解決に必要な情報を選んで考察する活動を取り入れる。 ・自らの考えを他者に説明したり、事柄が成り立つ理由を説明する活動を計画的に取り入れる。 ・文字式を扱う場面では、日常生活と結びつけながら式の意味を捉えるようにする。

# 理科

## 考察(問題と結果の分析)

- ・図や表などから正答を導く判断力に課題がある。
- ・事象に対して、説明する力や考察をする力に課題がある。

## 課題の要因分析

- ・観察、実験の結果から考察を文章化できない。
- ・事象に関して、本質が理解できず、他の実験形態になった場合に持っている知識が活用できない。



## 各学年における重点指導事項

3年	<ul style="list-style-type: none"><li>・観察、実験の結果から、「なぜそうなるのか」を考えさせ、自分の言葉で表現し、説明する力を身に付けさせる。</li><li>・知識を活用する機会を増やし、自身の言葉で考察する力を身に付けさせる。</li></ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>・観察、実験の結果から、「なぜそうなるのか」を考えさせ、自分の言葉で表現し、説明する力を養う。</li><li>・知識・技能をもとに、事象との関連性を深め、考察する力を身に付けさせる。</li></ul>
1年	<ul style="list-style-type: none"><li>・観察、実験の結果から、「なぜそうなるのか」を考えさせ、自分の言葉で表現する力を養う。</li><li>・基礎的な知識・技能の定着を図り、定型文をもとに考察の基礎を身に付けさせる。</li></ul>

### (3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和4年5月実施)

## 国語

学年	項目
1年	<p>考察(現状分析・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の伸びは、県の平均の伸びと同等である。学力レベルは、県を1ポイント下回っている。</li> <li>・言葉の特徴と使い方に関する正答率が低い。</li> <li>・記述式の正答率が、県・市と比べて高い。</li> </ul>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動を通して、言葉の特徴と使い方に関する理解を深める。</li> <li>・描写に着目して文脈の中での意味を捉えることの指導を丁寧に行う。</li> </ul>
2年	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の伸びは、市の平均の伸びと同等であり、県を1ポイント上回っている。学力レベルは県を1ポイント下回っている。</li> <li>・言語事項は伸びているが、反面記述式の問題形式には大きな課題が残った。</li> </ul>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語事項に関して、漢字ノートや計画的・継続的な家庭学習により、その成果が出たと思われる。今後も継続していく。</li> <li>・記述式の問いの正解率が低く、今後の授業において、「資料を根拠にして自分の考えを書く」内容を計画的、且つ意図的に実施していく。</li> </ul>
3年	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の伸びは、県の平均の伸びと同等であり、市を1ポイント上回っている。学力レベルは県、市とほぼ同レベルであった。</li> <li>・領域、観点、問題形式等においても県、市とほぼ同レベルの結果であった。特に記述式においては良好な結果を得た。</li> </ul>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数編成の授業形態による個に応じた指導の成果が出たように思われる。今後も教科担当者間での連携を密にして、指導法の創意工夫を図っていく。</li> <li>・少人数制により各課題等の評価を時間をかけ、丁寧に実施できている。今後も指導と評価を関連付けた授業を展開していく。</li> </ul>

## 数学

学年	項目
1年	<p>考察(現状分析・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均正答率が県平均と比べ2ポイント低い。</li> <li>・全ての領域・観点において県平均以下である。特に思考・判断・表現の正答率が低い。</li> <li>・かっこを含む計算や比例式の問題に課題がある。</li> </ul>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学を用いて日常生活に関わる問題を解決したり、数学的な表現の意味の理解に重点をおいた活動を取り入れる。</li> <li>・定期的の小テストや補充学習を行い、知識・技能に偏りがでないようにする。</li> </ul>
2年	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年からの同集団による伸び率が、県平均より高い。</li> <li>・データの活用の正答率が県平均より高く、文字式の問題への理解力が高い生徒が多い。</li> <li>・小数や分数を含んだ計算に課題がある。(県平均に比べ、20ポイント低い)</li> </ul>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に発展的な課題を追加で用意して、扱った結果、小テストで発展的な問題に対する正答率が高まった。</li> <li>・小数や分数を使う必要性のある問題を活用し、計算能力の向上を図る。</li> </ul>
3年	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の伸び率が県平均に比べ2倍以上伸びている。学力を伸ばした生徒の割合は県平均より高い。</li> <li>・記述式の問題の正答率が県平均より高く、解法が定まっている問題の正答率も高い。</li> <li>・事柄が正しいかどうかの判断に関する問題に課題がある。</li> </ul>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業においては、生徒が互いに質問し合う場面を多く設定し、全員が理解してから学習を進めるようにしていた。</li> <li>・小テストを行い、課題が見られた生徒には放課後補充学習や再テストを行った結果、小テストの正答率が高くなった。</li> <li>・毎時間、丁寧な資料を用意し、理解の深化を図る。</li> </ul>



# 英語

学年	項目
2年	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均正答率は、県より6ポイント、市より約8ポイント下回っている。</li> <li>・中2レベルは、県より2段階、市より3段階低く、課題が残る結果となった。</li> <li>・教科の領域では、県、市の平均を大きく下回っており、特に、「読むこと」においては約10ポイント低い結果となった。</li> <li>・レベル5, 6, 7に相当する生徒の割合が非常に高く、レベル10, 11の生徒が極端に少ない。</li> </ul> <p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な内容を書かせたり、読ませたりすることをくり返して、基礎の定着を図る。</li> <li>・「読む」「書く」「聞く」をバランスよく取り扱う工夫をし、授業以外にも家庭学習のアドバイスをしたり、放課後の勉強会を開催するなどして、底上げを図る。</li> </ul>
3年	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の伸びは、県の平均の伸びと同じであり、学力レベルも県、市と同レベルであった。</li> <li>・教科の領域においては、全ての項目で県の平均正答率を上回り、特に「読むこと」「書くこと」では4ポイント以上上回った。</li> <li>・評価の観点において全ての項目で県平均、市平均を上回っている。</li> </ul> <p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間継続して行っている基本本文の定着を図る取り組みや、音読活動の成果が出た。</li> <li>・英語を声に出してくり返し練習することで、音として残り、それらをアウトプットできる力が身についてきた。</li> <li>・基礎・基本の定着に努めると共に、自分の考えや意見を表現する場面を作り、応用力も身につけさせる。</li> <li>・教えあい、学び合う雰囲気づくりができていたため、授業においても学級全体で協力して学習する姿勢が見られ、これが学力向上に結びついたと考えられる。教師主導型ではなく、生徒主体の授業を展開していく。</li> </ul>

## 2 学力向上を図る取組

### (1) 各教科の授業における取組

# ① 国語科 学力向上プラン

## 重点的に伸ばす学力

活用語彙を増やし、正確に理解し、的確に表現する力

## 各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 毎授業、始めの5分を漢字や語句の学習の時間として設定し、語句を文の中で使えるようにする。</li><li>・ 漢字プリントを活用し、言語能力の向上を図る。</li><li>・ 理由や根拠に着目した読解・表現の定着を図る。</li><li>・ ワークを活用し、長文読解と文法事項の定着を図る。</li></ul>	
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 毎授業、始めの5分を漢字や語句の学習の時間として設定し、語句を文の中で使えるようにする。</li><li>・ ワークを活用し、正確に読み取り、適切に答える練習を行う。</li><li>・ 根拠を明確にして自分の考えを書く活動を行う。</li><li>・ 演習問題に取り組みせ、読解力の向上を図る。</li></ul>	
3年	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 毎授業、始めの10分を漢字や語句の学習の時間として設定し、語彙を広げ、語句を文の中で使えるようにする。</li><li>・ 単元のまとめ学習として、文章を読んで考えを広げたり深めたりしたことについて自分の考えを表現させる。</li><li>・ 少人数による授業を行い、充実した指導・支援を行う。</li></ul>	

A・・・取組の効果が十分に見られた

B・・・今後も課題として取り組む

C・・・取組を見直す

## ② 社会科 学力向上プラン

### 重点的に伸ばす学力

- 基礎的・基本的な知識の定着と、資料等から適切に読み取り、表現する力
- 持続可能な社会を生き抜くため、自分の考えをもち、適切に表現する力

### 各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、課題を設定し、まとめ、振り返りを行う。</li> <li>・話し合い活動を通して、意見を共有し、学習内容を再度振り返り、定着させる。</li> <li>・写真やグラフなど、図から読み取り、考え、文章化する。</li> <li>・単元ごとや章ごとに小テストを行う。</li> <li>・確認カードを活用し、単元毎の課題を追求し、学習を積み重ねる。</li> </ul>	
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、課題を設定し、まとめ、振り返りを行う。</li> <li>・単元ごとや章ごとに小テストを行う。</li> <li>・小グループ等による話し合い活動を通して、意見を共有し、学習内容を再度振り返り、定着させる。</li> <li>・これまでの学習とのつながりを意識し、事象に対する予想や考えを主体的にもち、自分の考えを文章で表現させる。</li> </ul>	
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、課題を設定し、まとめ、振り返りを行う。</li> <li>・1・2年次の学習内容に関する小テストを継続して行う。</li> <li>・課題解決に向けてグループワークを中心に、一人一人が主体的に発言し、他者との意見を共有する場面を設定する。</li> <li>・模擬裁判や模擬投票等の活動を通して、社会の形成者であることの自覚を促す。</li> </ul>	

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

### ③ 数学科 学力向上プラン

#### 重点的に伸ばす学力

基礎的・基本的な知識・技能を習得し、既習事項を活用しようとする力

#### 各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解や集中に時間がかかる生徒に対し、T Tを活用して支援する。</li> <li>・前時の学習内容を振り返ってから本時の内容に入る。</li> <li>・单元ごとに課題点を明確にした上で復習する。</li> <li>・授業内容を精選し、演習時間を確保する。</li> </ul>	
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を振り返ってから本時の内容に入る。</li> <li>・自分の考えを伝えたり、相手の考えを理解したりする場面を設定する。</li> <li>・結果の予想や既習事項の活用を行う場面を設定する。</li> <li>・年度末に1年間の学習内容の総復習を行う。</li> </ul>	
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の内容を振り返ることで、それを活用しながら新しい知識を理解できるようにする。</li> <li>・自分の考えを伝えたり、相手の考えを理解したりする場面を設定する。</li> <li>・発展的な内容や探究的な学習を積極的に取り入れる。</li> </ul>	

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

## ④ 理 科 学 力 向 上 プ ラ ン

### 重点的に伸ばす学力

- 事物・現象に関する基礎的な知識や技能を習得し、表現する力
- 基礎的な知識・技能を活用し、応用的に思考する力

### 各学年の授業改善

学 年	具体的な取組	取組の効果
1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験において、毎時間レポートを提出させ評価する。</li> <li>・ ワークや宿題を毎時間確認し、基礎的な知識を定着させる。</li> <li>・ 定期試験前に、補充学習を行う。練習問題に取り組ませる。</li> <li>・ 授業開始時に、前時の授業の確認を行う。</li> <li>・ 単元ごとに小テストを行い、既習内容の振り返りを行う。</li> </ul>	
2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験において、毎時間レポートを提出させ評価する。</li> <li>・ ワークや宿題を毎時間確認し、基礎的な知識を定着させる。</li> <li>・ 定期試験前に、補充学習を行う。練習問題に取り組ませる。</li> <li>・ 授業開始時に、前時の授業の確認を行う。</li> <li>・ 実験後、考察の時間を十分確保し、思考力の向上を図る。</li> </ul>	
3 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験において、毎時間レポートを提出させ評価する。</li> <li>・ ワークや宿題を毎時間確認し、基礎的な知識を定着させる。</li> <li>・ 定期試験前に、補充学習を行う。練習問題に取り組ませる。</li> <li>・ 授業開始時に、前時の授業の確認を行う。</li> <li>・ 難易度別の演習を行い、個に応じて課題解決能力の向上を図る。</li> </ul>	

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

## ⑤ 外国語科 学力向上プラン

### 重点的に伸ばす学力

- 英語を用いて自分の考えを相手に話したり、書いたりして表現する力
- まとまりのある文章を聞いたり読んだりして、必要な情報や要点を捉える力

### 各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎時間、「クイックインプット」を使用し、基本文の定着を図る。</li> <li>・ 音読シートを使用し、音読練習や、本文の暗唱を行う。</li> <li>・ 基本文を用いたQ&amp;Aの反復練習を行う。</li> <li>・ ALTとJTEによるリーディングテストを実施する。</li> <li>・ 学期に1度のスピーチ発表を行う。</li> <li>・ 言語の使用場面を意識し、言語活動を行う。</li> </ul>	
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎時間、「クイックインプット」を使用し、基本文の定着を図り、それを活用して、自分の気持ちや考えを表現する。</li> <li>・ 音読シートを活用し、音読練習や暗唱をして、本文の内容を別の表現で言い換えたり、説明したりする。(リーディングテストの実施)</li> <li>・ 個々のスピーチ発表、グループによるプレゼンテーションを行う。</li> <li>・ 場面設定を変えて、音読練習を行う。</li> <li>・ ペアやグループで、充実した言語活動を行う。</li> </ul>	
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎時間、「クイックインプット」を使用し、基本文の定着を図り、それを応用して、自分の気持ちや考えなどをまとめた英文で表現する。</li> <li>・ 音読シートを用いて、教科書本文の暗唱をし、さらに、本文の内容を自分の言葉で説明する。</li> <li>・ 与えられたテーマに関して、まとまりのある英文で表現する。</li> <li>・ より実践的な会話表現を用いた言語活動を行う。</li> <li>・ スピーチ発表会、ALTとの会話テストを実施する。</li> </ul>	

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

## ⑥ 他教科の授業改善

### ○音楽科

1年	<p>《身に付させる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な音楽に対して興味・関心をもてる力</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く姿勢、授業準備、チャイム着席などの授業規律を確立する。</li> <li>・生徒の実態に即した題材、興味のもてる題材を設定する。</li> <li>・デジタル教科書等ICTを活用する。</li> <li>・合唱祭に取り組む。</li> <li>・箏を習得する。</li> <li>・日本の伝統的な音楽に興味を持たせる。</li> </ul>
2年	<p>《身に付させる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な音楽や楽器に対して興味・関心をもてる力</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く姿勢、授業準備、チャイム着席などの授業規律を確立する。</li> <li>・生徒の実態に即した題材、興味のもてる題材を設定する。</li> <li>・デジタル教科書等ICTを活用する。</li> <li>・合唱祭に取り組む。</li> <li>・ギターを習得する。</li> <li>・日本の舞台芸術に興味を持たせる。</li> </ul>
3年	<p>《身に付させる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来を通して音楽に親しみ興味・関心をもてる力</li> <li>・自分の思いを音楽や言葉で表現できる力</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に即した題材、興味のもてる題材を設定する。</li> <li>・デジタル教科書等ICTを活用する。</li> <li>・合唱祭に取り組む。</li> <li>・創作の発表を行う。</li> <li>・日本・世界の舞台芸術に興味を持たせる。</li> </ul>

## ○美術科

1 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 根拠を造形的な見方・考え方をもつための創造的技能の習得</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 根拠を共通事項や造形的な見方・考え方に求められるように指導事項の整理、   掲示の充実などを行う。</li> <li>・ I C Tの効果的活用も含め年間指導計画、特に取り組む題材の精選を進める。</li> </ul>
2 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語活動の充実により広げ、深めた造形的な見方・考え方を自らの制作に生   かす構想発想の能力の習得</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 根拠を共通事項や造形的な見方・考え方に求められるように指導事項の整理、   既習事項の掲示の充実などを行う。</li> <li>・ I C Tの効果的活用も含め年間指導計画、特に取り組む題材の精選を進める。</li> </ul>
3 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思考過程を伝え合い、感じ取ったことを基に、作者の心情や表現の意図と工   夫を考える鑑賞の能力</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由な討論が可能になるように生徒の実態を捉えて話合いの論点や役割分担   などを工夫する。</li> <li>・ I C Tの効果的活用も含め年間指導計画、特に取り組む題材の精選を進める。</li> </ul>

## ○保健体育科

1 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身の課題を見つけ、課題を解決するために取り組む姿勢を育てる。</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習カードを活用して、自分自身の課題を確認させ、授業の前に振り返りを行   う。</li> </ul>
2 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身の課題を見つけ、課題を解決するために取り組む姿勢を育てる。</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習カードを活用して、自分自身の課題を確認させ、授業の前に振り返りを行   う。</li> </ul>



3 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身の課題と他者の課題を見つけ、課題を解決するため、互いに声を掛け取り組む姿勢を育てる。</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カードを活用し、自分自身の課題を確認させ、授業の前に振り返りを行う。また、ホワイトボードを使い、他者の課題を指摘し合えるようにする。</li> </ul>
--------	--

## ○技術・家庭科（技術分野）

1 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 材料と加工の技術に関わる基本的な知識</li> <li>・ 生物育成の技術に関わる基本的な知識</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間ごとに要点をまとめたワークシートを準備し、活用する。</li> <li>・ 実験（構造）や実習（踏み台製作・トマト栽培）などの体験的な学習を充実させる。</li> </ul>
2 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エネルギー変換の技術に関わる基本的な知識</li> <li>・ 情報の技術に関わる基本的な知識</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間ごとに要点をまとめたワークシートを作成し、記入させることで内容の理解を図る。</li> <li>・ 実験（リンク機構・カム機構）や実習（ラジオ製作・プログラミング）などの体験的な学習を充実させる。</li> </ul>
3 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の技術に関わる基本的な知識</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間ごとに要点をまとめたワークシートを作成し、記入させることで内容の理解を図る。</li> <li>・ 実習（プログラミング）などの体験的な学習を充実させる。</li> </ul>

## ○技術・家庭科（家庭分野）

1 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の選択と手入れに関する知識・技能</li> <li>・住居の機能と住まい方に関する知識・技能</li> <li>・生活を豊かにしようと工夫する力</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の生活を振り返り、生活と結びつけて考える活動を行う。</li> <li>・布を用いた物を製作する。（はし箱袋、エコバッグ）</li> <li>・衣生活または住生活に関する課題を見出し、実生活での実践につなげる。</li> </ul>
2 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活に必要な基礎的知識・技能</li> <li>・食生活を主体的に営む態度</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲を喚起させるために、身近な題材を設定する。</li> <li>・自分自身の生活を振り返り、結びつけて考える活動を行う。</li> <li>・調理実習を行い、基本的な技能の習得を図る。</li> <li>・食生活に関する課題を見出し、実生活での実践につなげる。</li> </ul>
3 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児に関する基礎的な知識と関わり方</li> <li>・消費生活や環境に配慮した生活に関する知識・技能</li> </ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の様子や幼児との関わり方を、映像視聴や体験等を通して学ばせる。</li> <li>・学習意欲を喚起させるために、身近な題材を設定する。</li> <li>・自分自身の生活を振り返り、結びつけて考える活動を行う。</li> </ul>

## ○特別の教科 道徳

1年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 友達の意見を聞き、広い視野から多面的・多角的に考える力</li><li>・ 道徳教材に触れて、自分の生き方を見つめる力</li></ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ローテーション道徳を実施する。（多くの教員が授業に参加することで、様々な価値観を生徒は感じることができ、教師も授業に工夫を凝らすようになる）</li><li>・ ゲストティーチャーを招いた授業を行う。（大石南中学校の「命の日」にちなみ、講師を招く。また、学級でも工夫を凝らした授業を実践する）</li><li>・ 話合いの仕方を学ぶ。</li></ul>
2年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 友達の意見を聞き、広い視野から多面的・多角的に考える力</li><li>・ 道徳教材に触れて、自分の生き方を見つめる力</li></ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ローテーション道徳を実施する。</li><li>・ ゲストティーチャーを招いた授業を行う。</li><li>・ 話合いの活性化を図る。</li></ul>
3年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 友達の意見を聞き、広い視野から多面的・多角的に考える力</li><li>・ 道徳教材に触れて、自分の生き方を見つめる力</li></ul> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ローテーション道徳を実施する。</li><li>・ ゲストティーチャーを招いた授業を行う。</li><li>・ 話合いを通して自身の生き方を考える。</li></ul>

## (2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
・磨心(まごころ)清掃の実施	非認知能力の育成を目指し、生徒が自ら清掃に集中して取り組むことができるような清掃活動を実施している。責任感を醸成するため清掃長を各分担場所に設け、生徒会本部と連携し主体的な取組を実施している。
・年間5回のイベントテストの実施	英語単語や数学の400マス計算など、全学年共通のテストを実施している。練習の時間を設け、努力すれば満点を取ることができる環境を整えることで、達成感を味わわせて学習意欲の向上を図っている。
・教科ルールの充実	国語・数学・英語・社会において、教科ルートを設置し、それぞれの教科に特化した教室づくりを行っている。授業環境を充実させることで集中力を高め、学習活動の活性化を図っている。
・少人数指導等の実施	数学・理科・社会・国語において、TTや単元に応じた少人数指導・習熟度別指導等を実施し、基礎的・基本的な学力の育成と共に応用力の育成にも取組み始めている。
・実力テストの実施	1・2年生において、年に2回の実力テストを実施し、個人の伸びに着目すると共に、分析結果を基にして授業改善に取り組んでいる。
・学力推進委員会の設置	学力推進委員会を設置し、学力向上に向けて共通理解・情報共有を図っている。
・学習時間を確保した教育課程	定期テストを2日間で計画をすることで、学習に向き合う時間の確保と学習の質の向上を図っている。
家庭教育との連携	
・フッ化物洗口の実施	健康管理の面からも学習を支えていただくため、むし歯の治癒率を高める働きかけとともに、むし歯の予防についても学校から発信し、意識を高める取組を行っている。
・自学ノートの活用	家庭学習の取組を定着させるために、学校全体として共通の自主学習ノートを配布し、毎日提出させ担任が目を通して、より効果的な取組をしているノートを示し、参考ポイントを紹介している。
・「学びのススメ」の活用	保護者会資料として活用することで学習の取組の共有化を図っている。